

令和2年度 第1回 就労支援事業所研修会 事業報告

テーマ「聴く力、伝える力」

令和2年7月9日（木）心身障がい福祉センター7階大研修室



ソーシャルディスタンス



消毒・検温



梅雨前線による雨のなか、新型コロナウイルス感染予防対策を講じた研修を初めて実施し、無事終了することができました。

大変嬉しいことに定員を超えるお申込みがあり、ソーシャルディスタンスを確保できる上限ギリギリの40事業所45名の方にご参加いただきました。参加者の皆様、ご協力ありがとうございました。

【講義】

講義1では、当センター所長の黒田より「聴く力、伝える力」をテーマに、就労支援は対人援助であり、相手を尊重し相手の立場に立って「聴く・伝える」ことが重要で「説得ではなく納得」の中での自己選択、自己決定への支援であるという支援者としての基本的な姿勢、スキルについて話をしました。

続く講義2では、企業支援担当の八方より実際のエピソードを交え、支援者は企業からどう見られているのか、支援者に対する評価がご本人への評価にも影響することもある等、「黒子」としての支援者の立ち振る舞いをお伝えしました。

【個人ワークとロールプレイ】

後半は架空の求人とプロフィールをもとに企業とのやりとりを想定した個人ワークを行いました。短時間で情報を読み取り、突然の指名にも快く応じてくださった6名の方からは当事者の立場にたったポイントを押さえたご意見をいただきました。

続いて個人ワークの資料を元に企業訪問場面のロールプレイをセンター職員が行いました。参加者の中には、やりとりの文言を熱心にメモに取られている方もいました。

【アンケート】

就労支援の経験年数が少ない方々からは、個人ワークやロールプレイが参考になったという回答が多くありました。また、企業訪問時のヒヤリハットの事例については、「自身にもあり得ることで大変参考になった」「企業と福祉職の常識の差」を感じたというご意見がありました。

次回9月16日（水）の研修会ではアンケートでの要望が多かった企業との意見交換会を予定しています。次回も是非、皆様のご参加をお待ちしております。



※席と席の間はできるだけ空間をとりました。



【ロールプレイ】

※実践の際の参考になればと思います。

令和2年度 第2回 就労支援事業所研修会 事業報告

テーマ「聴く力、伝える力」 ～企業が求めるもの～

令和2年9月16日（水）



【講義】

講義では、当センター就労支援コーディネーターの高野より「企業を知る～障がい者雇用・企業の動向について～」をテーマに、障がい者雇用を取り巻く現状や企業の取り組み、企業が求める人材等について話をしました。企業からは、事業概要や雇用状況についての説明、雇用における実際のエピソード等を交えお話いただきました。

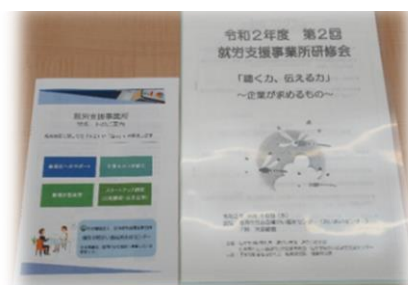
【意見交換会】

事業所の参加者が3グループに分かれ、それぞれの企業と意見交換会を行いました。「企業の障がい者雇用に対する取り組みや求める支援者像について直接聞いて非常に良かった。」等々、日々の就労支援への向き合い方や事業所での実践に向けての意識を新たにされた方も多くいた様子でした。本日の気づきをそれぞれの事業所に持ち帰り、今後の支援に活かしていただきたいと願っています。



今回は、「講義」とアンケートで要望が多かった「企業との意見交換会」を行いました。

当日は残暑のなか、3企業5名、23事業所23名の方にご参加いただき活発に意見交換ができ貴重な時間となりました。



参加した事業所の方より、「他の事業所の生の声、企業の方の取り組みなどが分かりとても有意義な時間になった。」「仕事を継続してもらうための意識付けを日頃から利用者に伝えていくことの大事さに気付けた。」などのご意見がありました。参加された企業、事業所の皆様、ご協力ありがとうございました。次回のご意見がございましたら、詳細が決まり次第改めてご案内いたします。次回も是非、皆様のご参加をお待ちしております。

事業所支援担当一同

令和2年度 第3回 就労支援事業所研修会 事業報告

～企業見学会～ テーマ「聴く力、伝える力」

令和2年12月3日（木） 見学先：株式会社つくし更生会（春日市）

春日市・大野城市の資源回収センターとして、昭和59年に設立された「株式会社つくし更生会」を見学しました。12の事業所の支援者とセンター職員が参加し、那波専務と工場長より工場内の案内と講演をしていただきました。

リサイクルプラザの見学



ビン・缶の分別作業



◆ 見学会 ◆

*参加者は熱心にメモを取りながら場内外の様子をご覧になっていました。

～見学のアンケートから～

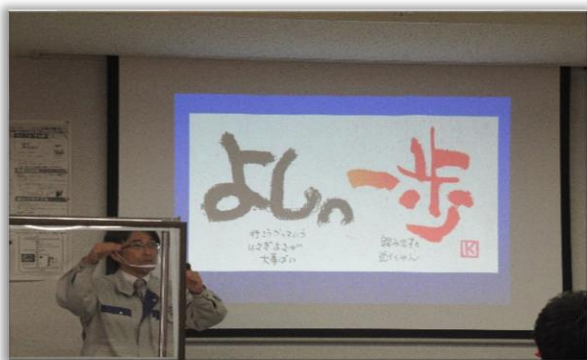
- 実際にイキイキと働かれている方々の姿を初めて拝見し、大変参考になりました。
- 就労に向けた支援につながる内容が、具体的に分かりました。
- 多くの工夫をされている一般企業の様子が体感できました。
- 働く方がやりたいと思える環境づくりがとても参考になりました。
- 車いすの方の働き方を例にとるなど、相手にわかる伝え方の手腕を実感できました。



◆ 講演会 ◆

企業目線、支援者目線、親目線などあらゆる視点からの障がい者雇用についてのお話をいただきました。「障がいにはこだわらず、できるようになりたい気持ち、できることを増やしていくことを大切にす」という那波専務の言葉が印象的でした。参加者からは、「事務系の仕事を希望する方に、清掃等の仕事の価値を伝えるにはどうすればいいか」「チームでの連携方法があれば知りたい」などの質問が出ていました。

「相手の気持ちや行動の理由を聞きだして言葉で表してみると、自分の気持ちに気づくことができる。その繰り返しで成長していく」・・・那波専務ご自身が仕事を通して、障がいのある方と長く関わる中で体得されていかれたプロセスを熱く語って下さいました。そして、「支援者として相手の気持ちをくみ取る訓練が必要」とも話され、参加した支援者は大きな刺激を受けていました。



講演会の様子



”今年度初の試みで、支援事業所向けの研修会として企業見学を開催しました。見学会・講演会の2部構成でしたが、コロナ禍にも関わらず、つくし更生会の方々には快く見学をさせていただき、感謝しております。”

担当者一同

令和2年度 第4回 就労支援事業所研修会 事業報告

～支援者が企業を知る～

令和3年 2月 17日（水） 14:00 ～16:20

コロナウィルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が1月13日に発令されたことで、あいあいセンターで実施する予定だった研修会を急遽、オンラインで実施しました。急な変更にも関わらず、15事業所の方に参加していただくことができました。



◆ 講演 ◆ テーマ「企業が求める支援」

ASKUL LOGIST(株) 福岡物流センター 坂井副センター長
多くの障がいのある方を雇用する中で「戦力として育成する」ための様々な工夫が結果として組織全体の生産性向上をもたらしたことや、個々の特性や性格、興味を確認しながら複数業務の習得を目指す意欲を促すサポート体制は、就労支援の訓練でも活かせるヒントに溢れた講演でした。

参加者からのアンケートには、「実際の取り組みを伺えて、勇気をもたらえた」「就労移行支援の利用中に支援者として伝えるべきことは何か考えさせられた」という意見がありました。

◆ グループワーク ◆

参加者3名ずつ5グループに分かれ、雇用前実習の事前打合せという設定で、ロールプレイを行いました。企業役・支援者役・観察者役の他、オンラインでしたのでセンターの職員は各グループに進行役として参加をしました。初めての取り組みで、進行する側も緊張しましたが、ロールプレイを繰り返すうちに活発な意見交換を行えたようでした。

「実務では客観的な意見をもらえることが無いので良い機会になった」「事前準備の重要性に気付いた」「企業の立場を経験できて視点が変わった」「コロナ禍でも他の事業所との交流がはかれ、オンラインもいいと思った」という意見がありました。

グループワークは得るものが大きいという意見が多くありました。今後の研修会の運営に活かしていきます。



今年度初の試みで、就労支援事業所向けの研修会をオンラインで開催しました。冒頭の挨拶を保健福祉局から、坂井副センター長は会社から、参加者はそれぞれの事業所からと離れているのに近く感じるという経験を共有することができました。

新型コロナウイルスによって色々大変な思いをした一年でしたが、おかげで新しい挑戦や経験ができた1年でもありました。令和2年度は、計4回研修会を行いました。ご参加いただき、本当にありがとうございました。日々の支援の一助にさせていただければ幸いです。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

研修担当一同